

第3回 函館市看護系大学等設置に関する検討会議 会議録

○ 開催日時：令和6年（2024年）12月23日（月）13:30～14:40

○ 開催場所：函館市本庁舎8階第2会議室

○ 出席者

委員：齋藤委員，大日向委員（webによる参加），大原委員，北村委員，
谷口委員，小形委員，宗川委員（委員名簿順 [7名中7名参加]）

市側：[企画部] 阿部部長，山口次長，橋本課長，沖崎主査

関係者：[市立函館保健所] 山田所長

（事務局 山口次長）

ただ今から，令和6年度第3回函館市看護系大学等設置に関する検討会議を開催する。

はじめに，本検討会議については，原則公開で行い，会議の内容については，開催後に本市のホームページで公開する。

本日の会議は，委員7名全員にご出席いただいていることを報告する。

（事務局 山口次長）

【資料1～資料3】に基づき説明

（大原委員）

・資料1の設置例について，市立大学新規設置か未来大学学部増設と分かれているが，未来大学に看護学部を増設する場合に，他の大学や看護学校を減員しなくてもよいかどうか。確認していないのであれば，文部科学省へ確認してほしい。

・市立大学新規設置より，未来大学学部増設のほうが認可申請では容易というような意見を聞いたことがあるが，いかがか。

・資料2の教員数30名は多めの設定と考えるが，大学設置基準上の最低人数だとどの程度であるか。

（事務局 山口次長）

・文部科学省より減員はしなくてもよいと伺っている。また，未来大学学部増設のほうが，認可申請上，通りやすいかどうかについては，文部科学省より直接の

言及はない。

- ・大学設置基準上、教員の最低数は 19 名となるが、他の大学の状況も参考にしており、30 名と少し多めに見ている。

（大原委員）

- ・教員数を少なくした場合、財政シミュレーションとして幅をもって示していただければ、前向きに考えられる。

- ・教員 30 名を集めることは大変であり、現実的には開学後、徐々に増やしていくということもあり得るのではないか。

（事務局 山口次長）

- ・頂戴したご意見を、参考にさせていただきたい。

（大日向委員）

- ・日本看護系大学協議会において、教員の推奨人数を出しているので、ご確認いただきたい。

- ・最低人数では大学運営が厳しいと考えられ、協議会の推奨人数を揃えることが良いのではないか。

（齋藤座長）

- ・大学を設置するとなった場合、調査を進めることとしていただきたい。

（齋藤座長）

- ・意見交換に入る前に、本検討会議の設置目的（趣旨）について改めて確認したい。

- ・本会議は、函館市における看護系大学（学部）の設置の必要性等について総合的に検討を行うために設置され、各専門分野の知識を有する皆様が委員として市長から委嘱されている。

- ・検討会議は令和 6 年度中に全 4 回の開催予定で進行しており、今回が 3 回目である。

- ・今回の会議では、看護系大学（学部）の設置について議論を行い、設置の可否についての方向性を決定したいと考えている。

- ・第4回会議では、本日の方向性に基づいて検討会議としての意見の取りまとめを行うこととなる。

- ・なお、これまでの検討会議における意見についてであるが、

（第1回検討会議の主な意見）

- ・令和6年度、市内4校の看護専門学校は、すべて定員割れの状況であり今後も学生集めは困難となる可能性が高い。

- ・全国的に教員が不足状況にあり、確保に苦勞している。

- ・看護系大学（学部）は全国的に増加傾向であり300校を超えた一方、令和6年度の保健医療系への大学志望者は全国的に減少傾向。道内では2大学が定員割れの状況にある。

- ・今後、医療の質や質の高い看護が求められることを考えると、専門学校では限界である。

- ・令和5年度に実施のアンケートを見ると、働き方改革や医療の高度化の側面から見ても、大学設置は時代の要請である。

- ・道南地域に看護系大学（学部）がないのは問題である。

（第2回検討会議の主な意見）

- ・大学を作らないのであれば、今年度中に結論を出し、今後の対応を考えるべき。

- ・大学設置には、渡島檜山といった広い枠組みで考慮すべき。

- ・大学を設置するとしても函館市の財政状況は余裕がない。安価な手法を選択すべき。

- ・医療界は大学の設置を希望している。

- ・なぜ大学が必要で、どのような看護師を輩出したいか、明確にする必要がある。一方、高い資質を持った看護師の輩出は必要である。

・これが実質的に最後の意見交換の場となることから、第1回目から今回までの検討会議の内容を踏まえ、各委員には函館市に看護系大学（学部）を設置することへの必要・不要・その他のご意見や、望ましいとお考えの設置例、財政推計によるコスト面でのご意見のほか、事務局からの資料の有無にかかわらず、別なご提案等があれば、ご意見などを頂戴したいと考えている。

(大原委員)

- ・大学院設置ができるのであれば、より発展性がありご検討いただきたい。
- ・3年制専門学校を卒業した看護師からの意見では、3年制の学校を卒業後、編入し学び直したい考えがある。手法を検討してほしい。
- ・本会議では、全会一致で設置したほうが良いと考えているが、最終決定すべきは市長と函館市議会である。大学が設置できなければ、専門学校は定員割れが悪化するだけではなく、今後、大学志向の強まりにより、函館市から若い人がどんどん出ていく。
- ・4つの専門学校に行く生徒は少なくなり、市内は空洞化する悪循環となる医療現場の状況が予想でき、函館市には頑張してほしい。

(北村委員)

- ・大原委員からもあったが、専門学校と大学のカリキュラムは異なる。函館市全体の看護レベルを上げるためには、高度な研修、認定看護師など社会人となつてから学べる場所があるのは大事である。
- ・大学院もそのとおりである。大卒後、いったん、看護師として働いたのち、学び直す看護師が多くなっている。
- ・看護の質を上げることが大事である。
- ・事務局へ質問だが、市の財政の赤字が続くのであれば、大学設置検討の見直し等はあるのだろうか。

(事務局 山口次長)

- ・財政状況は厳しいが、赤字であっても大学が必要となれば、大学設置となる。
- ・どれだけ必要性があるかだと考えている。

(宗川委員)

- ・大学院の件であるが、看護師は、社会人から入学する割合が高い。
- ・大学その社会人の学力を認めれば、短大や専門学校出身であっても学び直しも可能である。

(大日向委員)

- ・前回会議で申し上げたが、大学を函館市が作るのか、未来大学に作るのか。

- ・道南地域に看護系大学等がないので、設置は必須であるとする。
- ・看護系大学等が無いから作るのではなく、函館市は医療機関が多く、臨床環境がすでに構築されており、非常に有利であると思う。
- ・国が進めている地域包括ケアシステムの推進、地域への質の高い医療・看護の推進を考えると、大学設置は必要な将来投資と思う。
- ・そのため、大学設置は早めに進めるべきである。
- ・大学院設置については、学部設置が優先であり、その後開設は可能である。
- ・未来大学への学部増設が、現実的であるが、懸念として、未来大学は既設で有り、情報系としてそれなりの位置を築いている。
- ・ただ看護学部を作るのではなく、未来大学の理念とどのように絡めるか、カリキュラム構成もどのように理念とあわせるか、考慮する必要がある。
- ・結論としては、看護系大学はなるべく早期に設置すべきであり、それが道南地域にも良いと考える。

（谷口委員）

- ・開設年時の短縮や、費用の圧縮を行い、地域のニーズや関係者の理解を得られるのであれば、大学設置も良いのかもしれない。
- ・時代の要請にも応えられ、人口減少の一助、経済活性化にもつながる。
- ・しかし、財政のバランスを考えるべきである。
- ・道南ではドクターヘリを運行しているが、道南地域で一定程度補填しあっており、看護師供給について渡島檜山にメリットがあるので運営費の費用負担については、渡島檜山全体として考えてほしい。
- ・函館市ばかりが負担するという仕組みではなく、みんなで支えあうことが必要ではないか。

（小形委員）

- ・必要性は理解するが、気になるのは財政面である。
- ・資料2を見ると、令和14年度まで赤字となっている。
- ・財政面をどのようにするか工夫をする必要があると考えるが、大学設置に一步進むためには、どのようにすれば均衡を取れるかなど、考えることが大切である。

(山田所長)

- ・質の高い看護師を養成することは必要である。
- ・釧路市内の看護専門学校が大学と連携し、学位を取得し、大卒看護師を輩出する記事が出ていた。
- ・全国的にそのような制度を利用する学校は増加しているのか。
- ・大学ではなくても学位取得という方法はあるのか。

(宗川委員)

- ・専門学校と大学の併修制度は事例がある。
- ・看護専門学校の事例は少ないが、釧路は珍しい。
- ・専門学校を卒業後、大学院に行くこともあり、どの程度魅力に映るかという点はあるが、選択肢としての一つである。

(大日向委員)

- ・大学において、看護学教育を受けることが重要である。
- ・専門学校生が大学院進学するのは歓迎すべきことである。
- ・大学と専門学校の看護職養成の目的・目標は異なる。
- ・大学で看護学を4年間学んだ方を増加させることが必要である。
- ・教育内容の目的等が異なる。大学では研究的な思考が重要となり、専門学校ではそこまで求められていない。
- ・基礎教育は非常に重要だと考える。大学の基礎教育は専門学校に比べ非常にレベルが高い。
- ・専門学校卒業生の質の向上は、併せて考えなければならない課題ではある。

(宗川委員)

- ・資料を見ると、建物建設等の費用が財務シミュレーションに関わってくる。
- ・大学として建物の在り方を考えることで、圧縮できるところがあると考えてるので、検討にあたっては考慮してほしい。
- ・本当に必要なものは何かを精査することが重要である。

(齋藤座長)

- ・これまでの各委員の意見から、設置の方向性でまとまったのではないか。

- ・質の高い看護教育や実習ができること。
- ・財政的な心配はあるが、工夫しながら一步を踏み出す。
- ・一方で、どのように財政面でのバランスを取るか検討課題である。
- ・附帯意見として、従来の看護専門学校から4年制の学士を取っていくような、多様な学び方、大学院進学を含めて体制を整えていく。
- ・今回の会議では取りまとめの協議をさせていただきたい。

（事務局 山口次長）

- ・設置の方向性としてまとめていただいたが、市立大学なのか、未来大学なのかをご確認いただきたい。
- ・市では本内容を取りまとめのうえ、政策会議の場で決定するが、未来大学の学部増設となる場合には、未来大学内で議論する必要があることを補足させていただく。

（齋藤座長）

- ・市立大学および未来大学への学部増設について、委員からの意見はいかがか。

（北村委員）

- ・未来大学では、学部設置について何か話をされているか。

（事務局 山口次長）

- ・情報提供や資料提供を行っている。

（齋藤座長）

- ・未来大学に学部設置のボールを投げたとき、設置が難しいとなる可能性もあるのではないか。

（事務局 阿部部長）

- ・意見の取りまとめには、どの（例）が良いか一義的にご検討いただきたい。
- ・その場合、未来大学として難しいとなった場合の（例）を検討してほしい。

(宗川委員)

- ・看護系大学等を設置するとすれば、後発となる。
- ・後発だからこそ、これから学生を引き付けるためには、特徴のある教育や理念を持つべきであり、未来大学情報系学部とのコラボレーションは特色となり、重要である。
- ・これは、他ではできない学習となる。そのためには未来大学情報系学部との連携が必要であり、学部設置が望ましいと提言できるのではないかと考える。

(齋藤座長)

- ・これまでの議論において、未来大学に学部増設をし、特色を出すことが重要なことや、安価に設置すべきとの意見もあったことから、例 2 との内容でよろしいか。

(北村委員)

- ・私の所属している高橋病院では、未来大学と AI などで研究を深めており、連携することで特色を出せるのではないか。

(谷口委員)

- ・大義がないと未来大学も学部設置について了承と言えないと考える。
- ・未来大学に学部増設するための特色を出すべきである。なぜ、学部増設かをきちんと伝えないと、話に乗らないのではないか。

(大原委員)

- ・1 学年 50 人の市立単科大学において、独自性の創出は困難である。
- ・未来大学があるので、医療・看護の DX という面で、人がやらなくてもよいことはデジタルを使用する。
- ・医師や看護師は、人にしかできないことに注力してもらう。
- ・未来大学と看護学部設置による連携は、IT・DX の面から、千載一遇のチャンスである。

(齋藤座長)

- ・これまでの委員からの意見として、例 2 を推したいということとする。

・ここまで意見の取りまとめを行ったが、市として設置しないということもあり得ると考えるが、いかがか。

（事務局 阿部部長）

- ・可能性としてはあり得る。
- ・ご議論いただいた内容については、厳粛に受け止めたいと考えており、これを踏まえての市としての判断、また未来大学への依頼となる。
- ・その結果、未来大学において学部増設が難しいとなった場合、代替案を考えることもあり得る。

（齋藤座長）

- ・ここまでの検討会議の議論した内容を重く受け止めていただき、大学設置が困難となった場合、代替えを検討してほしいと考えている。
- ・検討会議では大学設置が総意となるが、大学が設置できなかった場合、これまでの会議が無駄にならないよう対応していただき、附帯意見も意見書原案に盛り込んでほしい。